

平成 27 年度大気環境における放射性物質の常時監視に関する評価検討会(第 2 回)
議事概要

1. 日時 平成 28 年 3 月 28 日(月) 14:00~16:00

2. 場所 航空会館 701・702 号室

3. 出席者(敬称略)

委員

小佐古 敏荘 東京大学工学系研究科 原子力安全工学講座 名誉教授
五十嵐 康人 気象庁 気象研究所 環境・応用気象研究部 第 4 研究室 室長
大原 利眞 (国研) 国立環境研究所 企画部 フェロー
兼保 直樹 (国研) 産業技術総合研究所 環境管理研究部門
大気環境動態評価研究グループ 研究グループ長
河寄 正利 福井県原子力環境監視センター 主任研究員
滝 光成 (国研) 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究部門
原子力科学研究所 放射線管理部 環境放射線管理課 課長代理
田中 敦 (国研) 国立環境研究所 環境計測研究センター
同位体・無機計測研究室 主任研究員
藤田 博喜 (国研) 日本原子力研究開発機構 バックエンド研究開発部門
核燃料サイクル工学研究所 放射線管理部 環境監視課
課長代理兼分析チームリーダー

環境省

瀧口 博明 水・大気環境局大気環境課長
伊藤 隆晃 水・大気環境局大気環境課課長補佐
松隈 大輔 水・大気環境局大気環境課課長補佐

事務局

磯貝 啓介、岸本 武士、新田 済、佐野 友一、杉山 翠、小林 慧人、式見 純一

オブザーバー 日立アロカメディカル株式会社

三上 章、松崎 清三

4. 議題

- (1) 大気環境における放射性物質のモニタリング結果(平成 27 年末とりまとめ)について
- (2) その他

5. 資料

- 資料 1 環境放射能水準調査等における空間放射線量率の解析結果
- 資料 2 環境放射能水準調査における環境試料(大気浮遊じん及び大気降水物)中の核種分析結果

6. 内容

主な審議内容を以下に示す。

(1) 環境放射能水準調査等における空間放射線量率の解析結果について

事務局より、資料 1 に基づき、環境放射能水準調査等における空間放射線量率の解析結果について説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見を以下に示す。

- ・川崎市川崎区大島測定所とはどういう地点かとの質問があった。川崎市は人口が多いにもかかわらず測定局がないので、原子力施設等の監視ポストのデータを使っている地点であるとの回答があった。
- ・「異常値は除外した」とあるが、判定基準はどういったものかとの質問があった。事務局より、通常の環境の変動幅を著しく超えたものについて、自治体にメーカーの点検等であることを確認し、データを除外しているとの回答があった。
- ・「空間放射線量率が上昇した地点については着実に減少している」について、具体的な例を挙げたほうが良いのではないかと質問があった。事務局より、参考資料 2 の経年変化図より、空間放射線量率の減少が確認できるとの回答があった。
- ・原発事故後の減衰は計算で予測された通りかとの質問があった。事務局より、そういった観点からの評価は行っていないとの回答があった。
- ・栃木県那須町那須町役場について、平成 26 年 12 月頃からベースラインが上がったように見えるとの質問があった。事務局より、自治体担当者に確認したところ、メーカーの点検によるものであった。ゲインが変わったことにより、ベースラインが若干上がったと考えられるとの回答があった。
- ・データを評価する上で、測定の条件を揃えたり、測定局の属性が分かると良いとのコメントがあった。事務局より、分かる範囲で対応していきたいとのコメントがあった。
- ・「rain out」の説明について、違う表現が良いのではないかとコメントがあった。兼保委員及び五十嵐委員に、後日修正案を提示していただけることとなった。

(2) 環境放射能水準調査における環境試料(大気浮遊じん及び大気降下物)中の核種分析結果

事務局より、資料 2 に基づき、環境放射能水準調査における環境試料(大気浮遊じん及び大気降下物)中の核種分析結果について説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見を以下に示す。

- ・調査結果が空欄の部分について、聞き取りで埋めることはしないのかと質問があった。事務局より、環境放射線データベースに記載されていない情報を自治体に聞き取り調査することは考えていないと回答があった。
- ・移設した地点については情報として分かるように記載すると良いとのコメントがあった。
- ・「大半の地点」という表現について、違う表現が良いのではないかとコメントがあった。事務局より、表現については環境省と相談して検討するとの回答があった。
- ・福島県大熊町の大気降下物の調査結果について、変動の原因として考えられるものはあるかとの質問があった。事務局より、当該地点については過去の調査結果が少なく評価は困難ではあるが、冬場に高めの結果が出る傾向があるようであるとの回答があった。

以上